

PRESS
RELEASE

2019年7月
報道関係各位
プレスリリース



香雪美術館 企画展

「106歳を生きる 篠田桃紅^{とう こう}」

とどめ得ぬもの 墨のいろ 心のかたち」

2019年8月1日（木）～10月14日（月・祝）

香雪美術館は、朝日新聞社の創業者である村山龍平^{りょうへい}(1850～1933)の収集した日本と東アジアの古い時代の美術品を所蔵しています。当館では、所蔵品を「コレクション展」として公開するとともに、春と秋に日本美術などの作品を紹介する「企画展」を開催しています。

秋季企画展として、「106歳を生きる 篠田桃紅 とどめ得ぬもの 墨のいろ 心のかたち」を開催いたします。この春106歳を迎え、今も新たな表現に挑戦しつづける美術家・篠田桃紅の、初期の作品から現代までの変遷を、約70点の作品と資料を通して紹介します。

【作家略歴】

篠田桃紅（しのだとうこう）

1913年中国・大連生まれ。5歳の頃から父に書の手ほどきを受けて墨と筆に触れ、以後独学で書を極める。第二次世界大戦後、文字を解体し、墨で抽象を描き始める。1956年単身渡米、ニューヨークを拠点に、ボストン、シカゴ、パリなどで個展を開催し、欧米のアートシーンを牽引してきた。壁画やレリーフといった建築に関わる仕事や、東京・増上寺大本堂の襖絵などの大作制作の一方で、リトグラフや装丁、題字、随筆ほか、活動は多岐にわたっている。

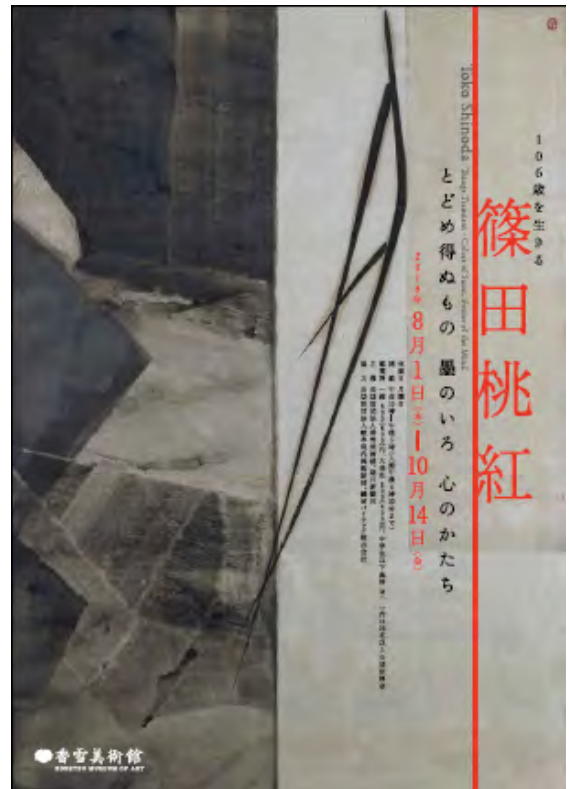
香雪美術館 企画展

「106歳を生きる ^{とう こう} 篠田桃紅
とどめ得ぬもの 墨のいろ 心のかたち」

この春、106歳を迎えた美術家・篠田桃紅。文字の形にとらわれない水墨抽象画という独自のスタイルを確立し、今もなお新たな表現に挑戦し続けています。

桃紅は、自然や時代の変化の中に漂うつろう「とどめ得ぬもの」に寄り添い、そこに見出した一筋の繊細で優美な「墨いろ」の線は、無限の広がりを感じさせるリズムを奏でます。

本展では、桃紅が日本の古典文学と書法を学び出発した初期の作品から、文字を離れて墨の色や線を追求し、独自の抽象表現を確立したニューヨークでの挑戦とその後。そして、余分なものを極限まで削ぎ落として新たな形に昇華し、一瞬の「心のかたち」を追求し続ける現在までの変遷を、約70点の作品と資料を通してたどります。



会 期	2019年8月1日（木）～10月14日（月・祝） 月曜休館 （ただし、8/12、9/16、9/23、10/14は開館、祝日の翌日は休館）
開館時間	午前 10 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
料 金	一般 800(700) 円、高大生 500(400) 円、中学生以下無料 *（ ）内は20 名以上の団体料金
主 催	公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社
協 力	公益財団法人岐阜現代美術財団、鍋屋バイテック会社

みどころ

第1章 文字を超えて（渡米前） - 1955

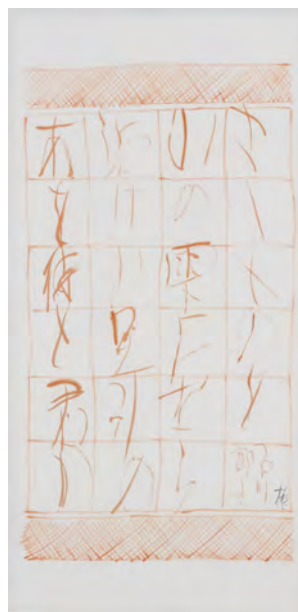
1913年に生まれた桃紅は、5歳の時の書初めではじめて墨と筆を手にし、父の手ほどきで書をはじめ、漢詩や和歌といった中国や日本の古典の素養を身に付けるようになりました。1935年、書を教え始め、1940年には初めて個展で書作品を発表し、既存の書の枠にとられない自由な表現作品を提示しました。

戦後、墨による抽象に本格的に取り組み始め、自分だけの創造を模索していました。1950年より書道芸術院に所属し、作品発表を行いながら、戦後の新しい時代に生まれた少字数書や近代詩文書の流れの中で作品を制作していきます。

1950年代、独自の創造を探究する情熱と、大きく膨らんだ抽象への思いは、書の狭い観念に窮屈さを感じていた桃紅を大きく前に押し出しました。1956年9月、書壇を離れ、書家として重ねてきた経歴を捨て、単身渡米を果たします。



図「星霜」 1954年
鍋屋バイテック会社蔵



図「吾を待つと 万葉集」 1955年以前
鍋屋バイテック会社蔵

第2章 渡米—新しいかたち 1956-60年代

1956年、43歳の桃紅は、詩文書や少字数書をはじめ、文字を解体した旋律的な墨の線の作品約70点を携え、独り新しい世界を目指して羽田を発ちます。日本を離れ、あえて海外で作品を発表するという大胆な挑戦でした。

1950年代のニューヨークは、抽象表現主義絵画が席捲し、そのピークを迎えていました。アメリカに降り立った桃紅は、10月、ボストンで海外での最初の個展を実現し、これを皮切

りに58年までの約2年間、ニューヨークを拠点として、欧州主要各地で精力的に作品を発表します。熱烈な歓迎と高い評価を受けたアメリカでの経験は、書から墨による自由な抽象造形へと方向転換することを決定づけるものとなりました。

帰国後の作品からは、文字の姿が影をひそめ、墨の飛沫や激しい筆勢に滞米中の抽象表現主義の熱情がそのまま留められています。1960年代から70年代にかけては、国内より海外での作品発表や建築に関わる仕事が頻繁になっていきます。



©「時間」 1958年
鍋屋バイテック会社蔵



㊦ 帰国直後の篠田桃紅 1958年

第3章 昇華する抽象 1970-80年代

アメリカでの2年間の経験を経て、自らの表現を手中にした桃紅は、日本の湿度と風土が墨にとって必然的なものであることを再確認しました。墨の持つ神秘的な可能性が極限まで追求され、次第に、墨の重なりやにじみといった墨の特性を生かしたいくつかの太い線が、緊張感を保ちながら面を構成するようになります。

70年代に入ると、日本の伝統に裏付けられた優美で繊細な美意識が、研ぎ澄まされたかたちとなって作品に立ち現れはじめます。エネルギーが影をひそめる代わりに、金地、銀地の和絵に代表されるような物語性や、和歌や能にあるほのかな余情や幽玄の美が見られるようになります。

1977年のベティ・パーソンズ・ギャラリーでの4回目の個展を転機として、桃紅は、主たる発表の場を日本に移しました。1980年代に入ると自身のスタイルを確立し、洗練の度をさらに深めていきます。



㊦ 「月読み」 1978年
公益財団法人岐阜現代美術財団蔵



㊦ 「百」 2012年
鍋屋バイテック会社蔵

第4章 永劫と響き合う一瞬のかたち 1990年代以降

桃紅の線とかたちは、不要なものが徹底的に省かれ、削ぎ落とされることで、その姿を現してきます。色彩においても同様です。1990年以降、墨の濃淡、ぼかし、にじみ、重なりの中に無限の色を探り、線ではなく面に墨のさまざまな表情を表現しようと試みます。

2000年に入ると、金箔や銀箔、プラチナ箔を麻紙に貼り、金地や銀地を背景にする作品が中心となります。金地、銀地は、華やかな装飾性を伴いますが、同時に余分なものを排除し、それ自体が美を構成する光をはらんだ余白となり、墨色を際立たせていきました。

とどめ得ぬものを愛おしみ、見えるかたちにとどめたい、という尽きぬ想いは、日々生み出される作品群によって物語られ、独り歩み続ける桃紅の「今」を標すかたちとして、これからも提示されつづけられるといえるでしょう。



㊦ 「越くら山」百人一首カルタ 2011年
鍋屋バイテック会社蔵



㊦ 篠田桃紅 アトリエにて 2010年

主な出展作品、篠田桃紅写真

番号	作者	作品名、篠田桃紅写真	時代	所蔵
A	篠田桃紅	せいそう 星霜	1954年	鍋屋バイテック会社
B	篠田桃紅	あ ま まんようしゅう 吾を待つと 万葉集	1955年以前	鍋屋バイテック会社
C	篠田桃紅	じかん 時間	1958年	鍋屋バイテック会社
D		まこく ちよくご しのだとうこう 帰国直後の篠田桃紅	1958年	
E	篠田桃紅	つきよ 月読み	1978年	公益財団法人岐阜現代美術財団
F	篠田桃紅	あかつき 暁	2007年	公益財団法人岐阜現代美術財団
G	篠田桃紅	ひやく 百	2012年	鍋屋バイテック会社
H	篠田桃紅	を やま ひやくにんしゅう 越くら山 百人一首カルタ	2011年	鍋屋バイテック会社
I		しのだとうこう 篠田桃紅 アトリエにて	2010年	

※記号欄（A～I）は貸出写真記号

————— 報道関係のお問い合わせ —————

「香雪美術館」篠田展係

TEL 078-841-0652 FAX 078-841-1402
〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目12-1

FAX: 078-841-1402

取材・写真使用申込書



香雪美術館

Kosetsu Museum of Art

(西暦) 年 月 日

取材について

取 材 者	フリガナ	フリガナ
	会社名	担当者名(連絡者)
	住所 〒	TEL
		FAX
	E-mail	取材人数 名
取材希望日時	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
媒 体	種別 <input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 新聞 <input type="checkbox"/> 雑誌 <input type="checkbox"/> その他()	
	番組名・コーナー名	
放送・発行日等	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
取材の範囲	撮影 <input type="checkbox"/> する (撮影機材 <input type="checkbox"/> スチール <input type="checkbox"/> ENG <input type="checkbox"/> DVC) <input type="checkbox"/> しない	
備 考 特に取材したい場所・内容等		

写真使用について

プレス用写真一覧をご確認の上、希望画像番号をご明記ください

作 品 画 像	ロ グ 画 像
---------	---------

注 意 事 項

企画書など概要がわかる書類の提出をお願いいたします。
原稿および記事については貴メディアへ御掲載前に香雪美術館広報担当宛に確認のためお送り
くださいますようお願いいたします。掲載後は掲載誌等の送付をお願いしております。

申 込 先

「香雪美術館」 篠田展係 担当：落合 (おちあい)
TEL 078-841-0652 FAX 078-841-1402
〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目-12-1